

## 不思議？森崎社長

いつも不思議に思っていた。この近畿タクシー森崎社長の世界は、一体なんだろう？何故次々とアイデアが生まれ、そして、それが倦まずたゆまず実践されていくのだろうか？多分そのアイデアを実現する為の膨大な時間やエネルギーに比して、売り上げ面での見返りは微々たるものではないか？何故、神戸という大都市の流しや繁華街、駅での待機を捨て、半径500メートルの世界に固執するのか？神戸のタクシー事業者は年金基金の協会の破綻もあり、厳しい経営が続くと聞く。その厳しい業況の中で、2002年の規制緩和以降のエコ、ユニバーサル、そして何より地元長田地区との深い深いつながりをぶれずに志向するのかが何故？……。



その疑問が少し解けた気がする。第10回のチームネットワークセミナー合宿は、森崎社長がマスコミでも大きく取り上げられた「ブレットタクシー」で協業する神戸駅前のANAクラウンホテルで行われ、森崎社長の吉本芸人ばりの軽妙トークを、たっぷり2時間聞かせて頂いた。森崎社長には2004年10月、六本木ヒルズで行われたタ

ク懇主催の「タクシーの未来を考えるシンポジウム」(システムオリジン特別協賛)、そして、2007年3月に行われた第5回タクシーゼミナールで、つばめ自動車天野社長と共に「タクシーのビジネスモデル単一メニューからの脱却」というテーマで講演を頂いている。しかし、清野自身、森崎社長の発想の奇抜さや喋りの上手さに驚くばかりで、森崎社長を支える根っこの部分について理解できていなかった気がする。今回の森崎社長の講演テーマは「もっと深く託してタクシー」……。森崎社長らしい、インパクトのある語感のテーマだ。そしてこのコンセプトが、十数年を超える森崎ワールドの結実なのかも知れない。

## 清野吉光氏のコラム 第80回

## 団塊 耕 志 録

清野 吉光(きよの よしみつ) 略歴

1950年 長野県四賀村生まれ、松本深志高校卒業。1968年上智大学外国学部ロシア語科入学、1971年 中退。その後印刷関係など様々な職業に従事。1976年清水市の日の丸交通入社。1980年静岡市内の事務機器センターに入社。1982年システムオリジンを仲間と創業、専務取締役。1992年代表取締役社長就任。2000年(株)タクシーサイト創立、現取締役会長。2007年タクシーアシスト代表取締役社長に新任。現在に至る。

もっと深く  
託してタクシー

## 『儲け』 信者を得る

3年前から地域の課題を解決する「託してタクシー」として、地域に輝けるものを繋げていく事をテーマにして「スイーッタクシー」「ブレットタクシー」「かき氷

タクシー」などを手掛けている。半径500メートルの狭い地域で、タクシー会社が果たすべき役割は輸送にとどまらない。輝けるものを発掘し、結び付ければ、そこに物語が生まれ、そしてそれを実現するための人と人とのネットワークを作り上げるプロセス自体が何かを生んでゆく。

ひとつひとつはさしたる利益を生まない。しかし、一番大事な「儲け」 信者を生んで行く。儲けには「金銭の儲け」もあるが「人の儲け」もある。森崎社長は「人の儲け」の方がより嬉しいし、地域の「輝きを発掘し、それを地域起こしのメニューとして実現する過程で、地域の人々との交流、つながり、そして、信頼(儲け)を得ているとの事。

もちろん、こうした事は一朝一夕で出来ず、森崎社長は一軒一軒の店を回り、自ら、その店の御客となり、時間とお金を使って、「スイーッタクシー」や「ブレットタクシー」のメニューとネットワークを開拓し、その中で徐々にこうしたサービ

スを実現し、そのサービスの新新さやそのインパクトで全国ネットのテレビ局などにたびたび取り上げられる事になった。我々が「地域公共交通」や「総合生活移動産業」という時、福祉や子育てなど、顕在化している地域の新しい移動ニーズに目が行く。これはこれで大事な事で、このニーズに如何に伝えていくのかは大きな問題だと思ふ。しかし森崎社長は逆に地域の中で「輝けるもの」を発掘し、それをタクシーと結び付けて、新しいサービスとして利用者にアピールするという需要創出型の、我々に無い視点と発想を持っていると思ふ。そしてそれが端的に表現されているのが、森崎社長の独特の観光観である。

### 震災体験の語り部

14年前に森崎社長が企画して、長田区の商店主を語り部にして、修学旅行の生徒に阪神淡路大震災の経験を語って貰った。すると生徒も熱心に聞いてくれたが、

それ以上、沈滞していた長田区の商店主たちの意識も活性化し、町の雰囲気も変わって来た。観光と言うと名所、旧跡やショッピングという観光客側だけの満足が問われるが、サービス（物語）を提供する側も、非常にモチベーションが高まり、交流の新しい場が生まれる。観光に来る人以上に迎える側の成長が促進され、その値打ちが高いと実感し、以後、森崎社長の観光観となつていくとの事。

この話は清野にとつては目から鱗が取れるもので、よく各地域のタクシー事業者に「観光はどうでしょうか？」と聞くと、大概「これは観光資源と言える物が無くて、観光タクシーなんぞ無理な話だ」という答えが返ってくる。歴史と物語に溢れている地元静岡や福岡でさえ、そういう声が聞かれた。しかし、森崎社長が流観光観に立てば、観光サービスを提供する側が意識を高め、企画力と物語力といくばくかの工夫、仕掛けさえ出来れば、無限に観光資源が存在するという事に



なる、とりわけ、この歴史と物語に溢れた日本であれば！。実際には、なかなか難しい事なのだろうけど、少なくとも観光なんて無理だよと始めから諦めてはいけないと思ふし、地域の人と共に観光資源そのものを作り出していく努力がタクシー業の活性化につながると思われる。「観光」という言葉の定義を深く考えなおす必要がある。人の感動をもたらすもの全てを観光だという位に広く捉え、「観光客」の感動だけでなく「観光事業者」の感動をもたらすような新しい「観光」を創造したいものだし、すで

に森崎社長はそれを実践しているのだと思ふ。

### 福岡市の「和食タクシー」

その文脈で、先のチームネクストセミナーで報告された、ロンドンタクシーの導入と地元の料亭嵯峨野と提携した大稲自動車の福岡「和食」タクシーはチャレンジングで新しい試みだと思ふ。その案内チラシには「和食」タクシーは、ユネスコの無形文化遺産に登録された「和食」の良さを改めて見つめ直した新「和食体験」と Door to Door で巡る新体験型タクシーをセットにしたツアーです。予備知識を得て体験する事で「感動をより高め」「写真に封じ込め」「感動を持ち帰り伝える」新しい体験型観光タクシーです」とある。

観光は「そこにあるもの」ではなく、「創造し、物語を語り、交流し、共に時間と感動を共有するもの」だと思ふ。すべてのタクシー事業者が、その実現の可能性を持つていてと思う。

(2015年7月26日)

タクシー買取専門店だから出来る高価買取

LPG、ガソリン、過走行、低年式等でも大丈夫!

## 株式会社ジェット

東京都公安委員会 第305561207814号

本社：〒174-0041 東京都板橋区舟渡 1-15-9 プローブ浮間舟渡 101 ☎03-6454-9896